

令和元年6月20日現在

機関番号：30127

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11536

研究課題名(和文) 日比看護学生および看護師の職業的アイデンティティ確立支援システムの開発

研究課題名(英文) Building a support system for developing professional identity of Japanese and Filipino nursing students and nurses.

研究代表者

高橋 美和 (TAKAHASHI, MIWA)

日本医療大学・保健医療学部・教授

研究者番号：40322903

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：日本とフィリピン、インドネシア、ベトナム間における経済連携協定(EPA)の合意に基づき外国人看護師が日本の医療現場に就労し、同僚として日本人看護師と共に働く可能性がある。その際、看護師としての職業的アイデンティティの差異、低下による様々な弊害を避け、職業的アイデンティティを維持、発達させていくことが重要である。本研究は、日本人看護師と在日外国人看護師の職業的アイデンティティ、影響因子について混合方法を用いて調査した。今後、収集したデータの分析を行い結果を明らかにしていく予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

外国人看護師を同僚として一緒に働く際、日本人看護師は、外国人看護師と同僚性を形成し共同体を構築して必要がある。その際、看護師としての職業的アイデンティティの差異、低下による様々な弊害を避けなければならない。そのため外国人看護師との協働による職業的アイデンティティの変化や影響因子を明らかにし、職業的アイデンティティを維持、発達させると共に医療および看護の質を向上のための示唆を得る。

研究成果の概要(英文)：There is a possibility that foreign nurses may work in Japanese medical field and work with Japanese nurses as colleagues based on the agreement of economic partnership agreement (EPA) between Japan and Philippines, Indonesia and Vietnam. In this situation, it is important to maintain and develop professional identity, avoiding the various adverse effects by differences and declines in professional identity as a nurse. This study investigated the professional identity of Japanese nurses and foreign nurses who work in Japan, and the influence factors by using a mixed method. In the future, we will analyze the collected data and clarify the results.

研究分野：基礎看護学

キーワード：看護師 職業的アイデンティティ 外国人看護師 経済連携協定(EPA)

## 1. 研究開始当初の背景

多くの先進国が少子高齢化に伴い看護師など医療従事者不足に直面している。そのため、米国を始め英国、EU 諸国など外国人労働者の受け入れによって自国の労働力を補っている先進国も多い。日本においても、社会の高齢化に伴い今後一層、必要となる看護・介護分野で外国人労働者の受け入れの意見が出され、日本とフィリピン、インドネシア、ベトナム間で経済連携協定(EPA)が合意された。この合意を受け、今後、一定の要件を満たす外国人看護師の日本への受け入れが開始され、外国人看護師を同僚として一緒に働く可能性がある。しかし、今後、外国人看護師を同僚として働く職場環境の変化があっても、看護、医療の質を低下させることなく、維持・向上させることが重要である。

近年、教育学を中心に、専門家同士が互いに成長し合える関係性を「同僚性」と呼び、このような性質をもった共同体を職場内外で育むことの重要性が提唱されている。奥野ら<sup>1)</sup>は、このような示唆は、看護職においても適応され、看護実践を他者と共に学び、探求し、看護師として互いに成長し合っているという連帯感を抱くことができる「共同体」の構築は、看護師の職業継続、専門家としての職業的アイデンティティ形成のためにも重要な課題であると述べている。同僚と職業上抱えている悩みや問題を語り合うこと、関係性を深めること、親和感、信頼感の構築、他者との関係性の変容、成長している自己、学びの実感などの肯定的な情動は、職業的アイデンティティの形成に繋がる。逆に、様々な背景をもつ異質な者同士の相互作用として働く葛藤、対立、不協和など相容れない情動は職業的アイデンティティの低下を招く。さらに、看護師の職業的アイデンティティに関する研究として、職場環境、同僚、チームの団結力などと関連があり、職業的アイデンティティを高めることは、バーンアウト、離職予防、ストレス耐性、自己効力感などを高める事は既に明らかになっている<sup>2-5)</sup>。従って、今後、日本に就労する外国人看護師を同僚として一緒に働く際も職業的アイデンティティを低下させることなく、維持、向上させ、外国人看護師と同僚性を形成し、共同体を構築していかなければならないと言える。

また、本来、看護師は、専門職業人として自己の職業にアイデンティティをもち、職業を続けていく中で、それを深め発達させていくと考えられている。そして、看護師は決定的な特性、すなわち看護師としての職業的アイデンティティを共有している。そのため、日本人と外国人看護師の職業的アイデンティティの発達、確立過程の比較も必要かつ重要であると言える。

先行研究において、日本人とフィリピン人看護学生および看護師の職業的アイデンティティの調査を実施し、日本人看護学生および看護師の職業的アイデンティティは、フィリピン人より有意に低いことを明らかにした。日本人およびフィリピン人看護師の職業的アイデンティティの確立過程に差異があっても、差異や低下による様々な弊害を避け、職業的アイデンティティを維持、発達させ、医療、看護の質を保証、向上させていく必要がある。

そのためには日本人およびフィリピン人等の外国人看護師が協働する事によって生じる肯定的、否定的情動の有無や、その情動が職業的アイデンティティに影響を及ぼしているのかを明らかにする。また、日本人看護師の外国人看護師の受け入れ前後、外国人看護師の来日前後の職業的アイデンティティの変化、影響の有無、その影響因子を明らかにする必要がある。

先行研究の日本とフィリピンの看護学生および看護師の比較調査および検証結果と併せ考察することにより、日本人および外国人双方の看護師支援システム開発への示唆を得られることが期待される。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本人と在日外国人看護師の職業的アイデンティティの発達過程とその関連因子の差異を検証する。また、日本人看護師の外国人看護師の受け入れ前後、外国人看護師の来日前後における情動の変化および職業的アイデンティティの変化、影響の有無、影響因子を明らかにし、外国人看護師との協働のための看護師支援システムの開発を考察、示唆を得ることである。

### 1) 日本人と外国人看護師の職業的アイデンティティの変化の検証

先行研究より、日本人看護師の職業的アイデンティティは、フィリピン人看護師より有意に低かった。日本人、フィリピン人看護師における職業的アイデンティティの関連要因を明らかにする。その結果を踏まえ、日本人およびフィリピン人等の外国人看護師が協働する事によって生じる肯定的、否定的情動の有無や、それらの情動による職業的アイデンティティへの影響の有無を明らかにする。また、日本人看護師の外国人看護師の受け入れ前後、外国人看護師の来日前後の職業的アイデンティティの変化、影響の有無、その影響因子を明らかにする。

### 2) 日本人とフィリピン人看護学生の職業的アイデンティティの発達過程の検証

看護師としての職業的アイデンティティを確立させるため看護学生を教育することは、充実した看護教育を行うために重要な課題と考える。看護師としての職業的アイデンティティは、看護教育を受けている学生の時から育ち始める。先行研究の横断調査の結果、日本人看護学生の職業的アイデンティティは、フィリピン人より有意に低かった。そのため、日本人とフィリピン人看護学生の縦断調査による職業的アイデンティティの発達過程とその関連

因子の差異を検証する。

### 3) 日本人と外国人看護師の協働のための看護師支援システムの開発

職業的アイデンティティの発達状態に差異がある看護師同士が協働していく上で、差異や低下による弊害を避け、職業的アイデンティティを維持、発達させていくために、日本人および外国人の双方の看護師を支援するシステムの開発について考察し示唆を得る。

### 4) 日本と諸外国の看護教育プログラムの検証

日本と諸外国の看護教育内容を調査し比較する。そして、職業的アイデンティティ確立、影響因子の比較のため看護教育方法、教育プログラム、カリキュラムについて比較し考察する。

## 3. 研究の方法

### 1) 看護師の職業的アイデンティティ発達の体系的整理

看護師の職業的アイデンティティの定義、測定、評価方法と整理するため、文献検討、既存のデータ、資料、外国人看護師およびEPA看護師研修生を受け入れている病院での情報収集を行った。また、諸外国の看護教育プログラムのデータ収集として、看護学生の職業的アイデンティティの発達に影響を及ぼすと考えられる因子や看護教育プログラムに関する資料および情報収集を行った。

### 2) フィールド開拓およびネットワーク構築

外国人看護師およびEPA看護師研修生を受け入れている施設、病院に関する情報収集と共に調査協力を得られる機関とのネットワークの構築を行った。

### 3) 職業的アイデンティティの発達過程に関する調査

外国人看護師を受け入れている施設に勤務する日本人看護師約250名、外国人看護師7名を対象に自記式質問紙および個別インタビュー調査を依頼した。

日本に在住する外国人看護師およびEPA看護師研修生の対象者数(サンプルサイズ)から量的調査の限界を補足するためにインタビュー調査による質的研究も導入し混合方法を用いて量的・質的の両側面から調査を実施した。

#### (1) 質問紙調査

看護師の職業的アイデンティティの質問紙(5件法、20項目)の他、関連要因として、自尊心10項目、SOC13項目、職務満足度、外国人看護師の受け入れに関する受容度等を加えた質問票を作成し調査を行った。この質問紙は英語訳され外国人看護師にも調査が行われた。その後、各尺度における両国間の差異、影響因子、尺度間の相関の強さ等を分析し、日本人および外国人看護師の職業的アイデンティティの発達過程を検証した。

#### (2) インタビュー調査

日本人および外国人看護師を対象に、それぞれの立場から見た看護職、看護、看護観、看護サービス、EPA合意、職業的アイデンティティへの影響等に関する意見を聴取するため、インタビューガイドを作成し、1人1回30~60分の個別面接を行い、日本人と外国人看護師間の協働に対する両者の意見、価値観、実践について調査を行った。

### 4) 日本人と外国人看護師の協働のための看護師支援システムの開発

質問紙調査およびインタビュー調査から、混合方法を用いて量的、質的の両側面から分析し日本人と外国人看護師の協働のための看護師支援システムの示唆を得る。

### 5) 日本と諸外国の看護教育プログラムの検証

日本と諸外国の看護教育方法、看護教育プログラム、カリキュラムに関する情報収集を行い教育システムの比較から職業的アイデンティティ確立、影響因子に関する示唆を得る。

## 4. 研究成果

これまでの研究から日本人とフィリピン人看護学生および看護師の職業的アイデンティティの調査を実施した結果、日本人看護学生および看護師の職業的アイデンティティは、共にフィリピン人より有意に低いことが明らかになった。それらの結果を踏まえ本研究は、日本人看護師の外国人看護師受け入れ前後および外国人看護師の来日前後の職業的アイデンティティの変化の有無、影響因子を検証、考察することを目的とした。

質問紙調査により、日本人看護師約200名、外国人看護師5名から回答を得た。また、日本人看護師12名、外国人看護師5名(フィリピン人4名、ベトナム人1名)にインタビュー調査を行った。得られたデータについて現在、分析中であり、今後、研究成果として学会発表、雑誌投稿で結果を公表していく予定である。

### <引用文献>

- 1) 奥野信行, 長尾匡子, 近田敬子: 看護師間の協同的活動による同僚性の形成に関する研究

- 看護教育セミナーを通して - , Quality Nursing , 10(2) , 16-22 , 2004 .  
2 ) 落合幸子 , 紙屋克子 , 落合亮太 , 他 : 看護師のアイデンティティの発達過程 : 茨城県立医療大学紀要 , 12 , 75-82 , 2007 .  
3 ) 落合幸子 , 紙屋克子 , 落合亮太 , 他 : 看護組織のチーム力と職業的アイデンティティとの関連 : 茨城県立医療大学紀要 , 12 , 83-89 , 2007 .  
4 ) 吉田なよ子 : 病院勤務の女性看護職の年齢、経験年数、職業アイデンティティ、看護専門職的自律性、バーンアウトの関連 , 日本赤十字看護学会誌 , 7(1) , 68-77 , 2007 .  
5 ) 下方友子 , 多田貴志 , 森千鶴 : 看護職者の職業的アイデンティティに関わる要因 , 日本看護学会論文集 ; 精神看護 , 35 , 115-117 , 2004 .

## 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
出願年 :  
国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
取得年 :  
国内外の別 :

〔その他〕  
ホームページ等

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名 :

ローマ字氏名 :

所属研究機関名 :

部局名 :

職名 :

研究者番号 (8桁):

### (2)研究協力者

研究協力者氏名 :

ローマ字氏名 :

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。